

平成 29 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	県営緑ヶ丘・小原山地区土砂災害犠牲者慰霊碑建立推進委員会
活動テーマ	土砂災害犠牲者慰霊式典と復興イベントの開催



8.20慰霊式典のための向日葵を栽培



地域住民が主体となってイベントを開催



8月20日 慰霊式典



自治会の枠を超えて地域住民が集う場に成長

2014年8月20日未明、広島市北部で発生したゲリラ豪雨が、私たちの住む県営緑ヶ丘・小原山地区を襲い、約140世帯中25名が死亡、ほぼ全世帯が長期にわたる避難生活を強いられました。市内で最大の被害を出したこの地区で生活再建ができた世帯は、2年半が経過した2017年3月時点で、約4割の60世帯。地域コミュニティーが崩壊の危機にさらされています。

このような現実の中で、犠牲となられた方々の魂を慰め、災害の教訓を後世に伝える活動の実施、そして、コミュニティーを再生し、残された私たち自身の心のケアを行うことを目的として、8月20日の慰霊式典をはじめとして、復興イベント「ひまわり広場」を年4回実施しました。また、土砂災害チャリティー神楽イベントにも参加しました。

はじめは行政やボランティアの人々の支援をいただきながらさまざまなイベントを実施してきましたが、今年からは私たち地域住民が主体となってイベントを実施できるようになりました。自治会の枠を超えた住民どうし交流が実現したのは、被災から1年後から始めた「ひまわり広場」という交流の場がきっかけとなり、被災体験を乗り越え、コミュニティー再興に向けて一歩先に歩みを進めようという住民一人ひとりの意識が向上したからだと考えます。

私たちは、他人に「自助」を押し付けたり、むやみに「公助」を期待したりという後ろ向きの歩みではなく、「共助」という人類の進化の原点に立ち返って、少子高齢化という古くて新しい社会問題を解決したいと考えています。かつて被爆を乗り越え復興を成し遂げた広島のように、土砂災害を乗り越えて心の復興を成し遂げ、自助・共助・公助のバランスが整った、災害に強いコミュニティーづくりをこれからも確実に進めていきたいと願っています。